

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム福田の家①		
所在地	磐田市東小島260番地		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&JigyosvoCd=2276600398-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田の家は田園風景の中にポツンと建っている平屋建て建物で解放感に満ちています。周囲には実の成る木、四季を感じさせる草花が植えてあり、見る目を楽しませてくれています。天気の良い日には外気浴を楽しみりハビリ体操、歌、散歩など健康と気分転換を兼ね他の館との交流を楽しんでいます。定期的に発行している「福田の家だより」を通じて御家族や自治会の方々との交流を深めながらその人らしく安心して過ごせる家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落語、オカリナ、銭太鼓、フラダンス、法人所属のエムサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどで、困っていることを投げかけると我がことのように話し合いが進み助けられています。新管理者はなんでも言える環境をつくろうと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、「まだ十分な吸い上げはできていない」としながらも、これまでは職員負担となっていたものが軽減されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく安心して過ごせる家』という理念を挙げ実現に向けて頑張っている。目につく所に掲示している。	着任したばかりの管理者ですが、「不穏とみられる利用者には聴くことを優先し、状況に合わせ外の空気を吸いに出かけたりと落ち着くまで寄り添う職員の姿をよく見かける」ため、互いの信頼関係が出来ていると感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の2つの自治会さんとお付き合いさせて頂き防災訓練、豆まき、敬老会、お祭りに参加させて頂き 廃品回収に協力させて頂いております。中学生の体験職場研修の受け入れもしています。	落語、オカリナ、カラオケ、銭太鼓、フラダンス、北浜中学の生徒による和太鼓、法人所属のエムサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議上で認知症について説明し理解を求めて 意見・要望・等お聴きし応えるようにしている。ボランティアの来設時には、近隣地域の方に参加を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、2自治会役員さん、市、包括、家人さん地区会委員さんの協力の基2ヶ月に1回開催し施設の現状・状況報告をし皆さんから意見・要望を聞き参考にし今後のサービス向上に役立てる。	運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか、地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどです。困っていることを投げかけると我がことのように合議が進み助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し問題等の相談をしている。出席されている他施設の方との意見交換をしています。	FAXで済むようなことも足繁く通い、磐田市の窓口には小さなことでも相談して顔を覚えてもらえています。最近では「所属自治会を取り違えたと分かり、挨拶に行き今後交流を深めていくように」との指導も得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0をグループ全体で挙げている。朝9時～16時までは開錠し 利用者さんが外出希望があれば一緒に歩いて行く事をする。	すべての箇所が開放されていますが緊急外出はなく、また健康状態も大変よく、身体拘束に係るような症状もみられません。センサーがベッドの脇や入口に設置された居室ですが夜間のみ使用と限定しています。本件は毎回テーマを変え、年に1度は研修をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の指示に従っている。本部主体の研修等に参加している。月一に職員会議でも取り入れて職員同士間で話し合い・注意し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の取り組みが出来ていないので今後少しづつ取組んで行けたらと考える。外部研修の参加に勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の内容の入居時重要事項説明書を渡し理解をして頂いて貰える様に説明する側も内容を熟知する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を明確にして重要事項説明書に表記・掲示している。玄関には、「ご意見箱」を設置している。月次報告書を月に1回作成し利用者のご家族に送付しています。	花や野菜、ボランティア情報も届けられ、また介護保険の負担増へのクレームもあったとのことから、気安い間柄にあることが覗えます。請求書にはバイトルや出来事を同封して家族には暮らしの近況を知ってもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催 職員の意見・提案等情報の共有化を図っている。	初管理有はなんでも話せる環境をつくりつと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、フォローシップを発揮しようとしています。職員会議では議題を5つほど提示のうえ発言しやすいよう支援し、就任して2ヶ月「まだまだ」としながらも職員負担が大幅に軽減した例もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な規定改定を行い 伝える事で向上心を持ち働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、規定の受講を義務化している。毎月1回勉強会を開いている。内外研修の参加を奨めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の会議、研修に出席し情報交換を行っている。職員に関しては、グループ内の他施設へ研修に行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に直接面談し話しをし要望等をお聴きし安心して過ごせる様に関係作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも何度かお会いし生活に対する意向要望等をお聴きしていき、入所後にも来設際には報告して関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医、協力施設、ケアマネ、地域責任者にアドバイスを受けて必要な場合には、管轄の包括支援センターに依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のプライドを尊重しつつコミュニケーションを心掛けている。(性格、趣味)また 運営理念を基本に置き支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は、御家族の方々と接する事で理解して頂き、本人にとって最良な支援を模索、また実践する様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士が仲の良い人と話し易い様に隣同士にしたり、馴染の方の来設時にも職員が間に入り上手くコミュニケーションが取れるように支援している。	家族との関係は良好で時間を潰すため、利用者は行きたい処に出かけることができます。近所に住む友人がシルバーカーを引いて遊びに来たり、昔から通う床屋へは職員が付き添うことで続けられています。珈琲やソーダを好む人、煙草を嗜む人、欲しいものは買い物外出で使っています	「外出の機会が少ないことは課題としている」とのことですので、打開策の検討を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションやレクリエーションを楽しめるように職員が間に入ったり、他館に職員同伴で遊びに行ったり、して交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は、今までには有りませんが、必要に応じて本人・家族から要望・相談があればフォロー支援に努める。利用者さんが、近隣の方が多いのでフォローしたいと考えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意見、要望、想いを聴き取り把握し明るく、楽しく生活出来る様に支援する。	利用者との信頼関係が厚く、毎日の小さな変化にも気づくことができおり、また「その人の身になった、姿勢があります。例えば、前屈でメニューが何か知る由もなかった人には職員が大きめのクッションを置くことで「食事が美味しくなった」と喜ばれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人に今までの生活歴・健康状態を聴き情報収集し把握に努め、利用者の日々の生活での記録を採り施設の暮らしの中からも把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活状況、状態と施設内の状況、状態を総合的に取りまとめて把握するように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに反映出来る様に本人、家族から意見意向を考慮し職員間でもカンファレンスし計画作成をしている。	現状カンファレンスはなく、計画作成者が申し送りノートや排泄チェック表、介護記録、担当職員のヒアリングを参考に作成しています。これまでは職員全員での話し合いがなく、またプランの見直しも十分でなかったため今後は積極的に取組むことを決めています。	適切なプラン化の一つとして家族を交えたサービス担当者会議の開催があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護経過に日々の様子でちょっとした事、気付いた事を記入し情報共有し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や都合に応じて受診の付き添い・入院中の対応・外出支援等を行っている。ここの施設での生活困難な状況な時は、同グループの老健施設の移設を進める。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば職員と一緒に買い物に行き、自分好みに買い物が出来ように支援している。個別に外出サービス支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・歯科医とは協力医療機関契約して月に一度受診をしている。また御家族の希望する馴染の医療機関でも受診出来る様に支援している。緊急時には、医師、家族と連絡を取り適切な対応を取る様に努めている。	選択できるようにしてはいるものの、ほぼ全員が協力医に変更しています。精神科など専門医は家族にお願いしていますが、難しい場合は職員が介護タクシーを使って支援しています。状態変化には口頭とメモで状況説明のうえ、排泄バイタルのチェック表を医師に見せています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来設し利用者の状態を伝え相談をして情報を共有し支持を仰いでいる。介護員の出来ない行為などもその時にお願している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能か、御家族から状況を聞いたり、入院先の医療機関を訪問し確認したり病院関係者と今後の受け入れの相談、確認に努めている。もしもの時には、同グループ系列の老健センターに転設の紹介に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際にもご説明しますが、終末期を向かえこの施設では…と言う時は同グループ系列の看護体制の取れた老健センターへ移設も可能で有ります。またこちらでの看取り支援に取組める体制を整える。	契約時に書面で確認しています。自身で座ることが困難になったら家族に相談し、老人保健施設や特別養護老人ホームへの移設について検討することになっていますが、家族が「此处で」と希望した場合は出来る限りのことをする考えでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会、研修会に進んで参加し、職員間で知識を共有しカンファレンスし身に付く様に心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施風水害の訓練も1回は、夜間設定で行っている。地区の防災訓練に利用者と参加しています。	夜間想定もおこない2回の法定訓練を実施するほか、地域へは職員、利用者で出かけ、本年は2つの地区の訓練に出向いています。何かあれば隣の工場に避難できることになっていて、社員も「協力してくれる」と約束があります。	備蓄はなく近くにある法人頼みとのことで、法人が当事業所分としてどの程度、何を保有しているか、改めて精査することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を頭に置き接している。個人情報に関する書類は事務所の棚に施錠し保管し、掲示物の写真・生年月日・名前は、御家族の承諾を得て行っている。	個人情報1箇所集中管理とし、鍵もかけています。利用者と職員にファミリー感が滲むだけに、言葉遣いや立居振舞に親しさが増してしまわないよう管理者が留意し、また職員間でも注意しあえる関係ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、今までにして来た事で得意な事、好きな事に力を入れ支援する。その日その日の体調に合わせて行う事も心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調に合わせて希望に合った支援をする様に心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装に成る様にまた入浴後の服装もパターン化しない様に気を付けて支援している。又は定期的に美容師の方に来て頂いて利用者の希望のカットもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの出来る利用者には、食器の洗い物などをお願いしたり、年に数回嗜好調査を実施し好みに合った物の提供に努める。好物を聴きそれに応えられる様に努める。	食材は毎日レシピとともに業者から届けられ、畑で収穫した野菜も足して職員が作っています。利用者も食材や食器洗い、テーブル拭きにと進んで手伝っています。おやつもできるだけ手づくりを心掛け、最近ではおはぎやいちじく、柿をアレンジしたものを提供しています。	「外食はあまりしていないため、利用者の食べたいものを聞き取り、みんなで出かけた」とのことですので、実現を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合った軟らかさ・大きさ・量・で提供するように水分量と共に介護記録記入し日々の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態により口腔ケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し尿意、便意の訴えがない方には時間で誘導を一人ひとりの排泄状態や習慣を把握する様にしている。洋服の上げ下げ、手洗いの支持を入れ自立に向けた支援をする。	大半がパットのみという状況にあり、見守りが主となっています。中にはオムツゼロを目指して取り組む人もいて、殆どが排泄チェック表によるパターン把握で様子観察も含み声をかけています。便秘にはマッサージや水分量増加とできるだけ投薬以外の方法をとるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・廊下を廻り・散歩と体を動かす時間を設け、水分量・食物にも気を付けたりお腹のマッサージをしたりなるべく薬を避ける様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。入浴の順番は入居者の身体状況に合わせて自立出来る方には見守りで支援出来ない方には介助している。	ユニットごとに浴室のタイルの色が異なり、すべて大きいことが特徴です。冬にはファンヒーターで温め、夏はもともと風通しがよいため、少し窓を開けて換気しています。一人ずつ1日置きに足し湯ですが、湯温等好みに応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間臥床される方も時間を決めてして頂き昼夜逆転しない様に配慮しながら支援し寝具に関しても陽に干したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っており手わたしをし内服した事を確認している。処方箋の記録を残し一人一人の症状の変化の有った時には医師に伝え指示を仰ぐ様に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や やりたい事を考慮したうえで洗濯物量み むりえ・カルタ・歌を唄う等楽しく出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い日には外気浴を楽しんだり入居者の身体状況に合わせて散歩の支援をしたり 希望があれば買い物の支援もしている。	「ソファに座るだけで朝日は1号館、夕日は3号館でたっぷり注がれるためか、どこかに行きたい声がない」との認識で、外気浴と散歩が中心の生活を送っています。号間を自由に往来することで足腰の鍛錬は叶っており、買い物は要望に応じて職員と一緒に出掛けています。	「みんなで出かける」ことを目標に現在イベント計画中のことですので、ぜひ進捗を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金規定にて管理し金庫内に保管し管理者のみが開錠出来る様にしている。買い物に行ける方には職員同行にて買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば掛ける事も掛けて頂く事も出来ます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで天上が高く明るゆったりとした空間が有る。展示物で季節感を感じて頂けるよう工夫している。	天井が高く、高窓からの彩光もとれていて、温かく開放的です。また縮緬で作られた沢山の人形や御殿毬、吊るし雛、編み物のぬいぐるみやマットと、手造り品がさらに温かみを助長させていました。クリスマスが近いことを伝えるツリーやシールもみられました。	これまで季節イベントはあまりおこなわれていないとのことですので、ぜひ広いリビングが行事で賑わうことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンキッチンで天井が高く窓からは田園が見わたせ落ち着く景色 外に出れば日当たり良くベンチを設置し入居者が日向ぼっこしながら過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家の物、使い慣れた家具などを入れて使い易いように自由にお使い出来ます。	モノが少なく整然として広く感じますが、ほとんどに折鶴が飾られています。僅かですがテレビや冷蔵庫が置かれた居室もあります。また植物を育てるのが好きな利用者は所有の観葉植物からプランターに株分けしていただきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手摺を使って立ち上がりの練習したり自立を支援する様にトイレに手摺があり色々な物で自立支援の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム福田の家②		
所在地	磐田市東小島260番地		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田の家は田園風景の中にポツンと建っている平屋建て建物で解放感に満ちています。周囲には実の成る木、四季を感じさせる草花が植えてあり、見る目を楽しませてくれています。天気の良い日には外気浴を楽しみりハビリ体操、歌、散歩など健康と気分転換を兼ね他の館との交流を楽しんでいます。定期的に発行している「福田の家だより」を通じて御家族や自治会の方々との交流を深めながらその人らしく安心して過ごせる家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落語、オカリナ、銭太鼓、フラダンス、法人所属のEMサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどで、困っていることを投げかけると我がことのように話し合いが進み助けられています。新管理者はなんでも言える環境をつくろうと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、「まだ十分な吸い上げはできていない」としながらも、これまでは職員負担となっていたものが軽減されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく安心して過ごせる家』という理念を常に見える所に掲示し実現に向けて頑張っている。	着任したばかりの管理者ですが、「不穏とみられる利用者には聴くことを優先し、状況に合わせ外の空気を吸いに出かけたりと落ち着くまで寄り添う職員の姿をよく見かける」ため、互いの信頼関係が出来ていると感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の実施。祭典には屋台来設、子ども達の手踊り。廃品回収に協力(小中学校、自治会)	落語、オカリナ、カラオケ、銭太鼓、フラダンス、北浜中学の生徒による和太鼓、法人所属のエムサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議上で認知症について説明し理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、2自治会役員さん、市、包括、家人さん地区会委員さんの協力のもと2ヶ月に1回開催し施設の現状・状況報告をし皆さんから意見・要望を聞き参考にし今後のサービス向上に役立てる。	運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか、地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどです。困っていることを投げかけると我がことのように合議が進み助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し問題等の相談にのって頂いている。	FAXで済むようなことも足繁く通い、磐田市の窓口には小さなことでも相談して顔を覚えてもらえています。最近では「所属自治会を取り違えていたと分かり、挨拶に行き今後交流を深めていくように」との指導も得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0をグループ全体で挙げている。朝9時～16時までは開錠し 利用者さんの外出希望が有れば一緒に歩いて出る事をする。	すべての箇所が開放されていますが緊急外出はなく、また健康状態も大変よく、身体拘束に係るような症状もみられません。センサーがベッドの脇や入口に設置された居室ですが夜間のみ使用と限定しています。本件は毎回テーマを変え、年に1度は研修をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の指示に従っている。本部主体の研修等に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の取り組みが出来ていないので今後少しずつ取組んでいけたらと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項説明書を渡し理解をして頂いてもらえる様に説明する側も内容を熟知する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を明確にして重要事項説明書に表記・掲示している。玄関には、「ご意見箱」を設置している。月次報告書を月に1回作成し利用者の日頃の生活を報告しています。	花や野菜、ボランティア情報も届けられ、また介護保険の負担増へのクレームもあったとのことから、気安い間柄にあることが覗えます。請求書にはバイトルや出来事を同封して家族には暮らしの近況を知ってもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開いて職員の意見を聞いたり、情報の共有化を行っている。	初管理有はなんでも話せる環境をつくるつと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、フォローシップを發揮しようとしています。職員会議では議題を5つほど提示のうえ発言しやすいよう支援し、就任して2ヶ月「まだまだ」としながらも職員負担が大幅に軽減した例もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な規定改定を行い伝える事で向上心を持ち働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は一般規定の受講を義務化している。また内外の研修を受ける機会も受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の会議、研修に出席し情報交換を行っている。職員に関しては、グループ内の他施設へ研修に行く等している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		I サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に直接面談し話しをし要望等をお聴きし安心して過ごせる様に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも何度かお会いし生活に対する意向要望等をお聴きしていき、入所後にも来設の際には報告して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で本人と家族がその時まず必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。	協力医、協力施設、ケアマネ、地域責任者にアドバイスを受けて必要な場合には、管轄の包括支援センターに依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のプライドを尊重しつつコミュニケーションを心掛けている。(性格、趣味)また 運営理念を基本に置き支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は、御家族の方々と接する事で理解して頂き、本人にとって最善の対応 支援を模索、また実践している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が御家族友人、知人と触れ合う事が出来る様に御家族にお願いしている。	家族との関係は良好で時間を潰すため、利用者は行きたい処に出かけることができます。近所に住む友人がシルバーカーを引いて遊びに来たり、昔から通う床屋へは職員が付き添うことで続けられています。珈琲やソーダを好む人、煙草を嗜む人、欲しいものは買い物外出で使っています	「外出の機会が少ないことは課題としている」とのことですので、打開策の検討を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の会話の輪に職員も入って仲立ちし円滑にコミュニケーション出来る様 サポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族から要望・相談があればフォロー支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切に、一人一人の想い・希望・意向を把握して日々の生活に生かしている。	利用者と職員の信頼関係が厚く、毎日の小さな変化にも気づくことができおり、また「その人の身になった、姿勢があります。例えば、前屈でメニューが何か知る由もなかった人には職員が大きめのクッションを置くことで「食事が美味しくなった」と喜ばれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人に今までの生活歴・健康状態を聴き情報収集し把握に努め、入居後にはアセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事でこれまでの暮らしを把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施しモニタリングを定期的に行う事でこれまでの状態を総合的に把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	統合したケアが出来る様に月初めの一週間ユニット会議を行う。モニタリングは、3ヶ月に一度行いそれらを基にして介護計画を作成している。	現状カンファレンスはなく、計画作成者が申し送りノートや排泄チェック表、介護記録、担当職員のヒアリングを参考に作成しています。これまでは職員全員での話し合いがなく、またプランの見直しも十分でなかったため今後は積極的に取組むことを決めています。	適切なプラン化の一つとして家族を交えたサービス担当者会議の開催があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護経過に日々の様子で気付いた事を記入し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や都合に応じて受診の付き添い・入院中の対応・外出支援等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば職員と一緒に買い物に出掛け自分の好きな物を選んで頂いたり床屋へ行き自分の意志を伝え散髪したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・歯科医とは協力医療機関契約して月一度受診をしている。また御家族の希望する馴染の医療機関でも受診出来る様に支援している。	選択できるようにしてはいるものの、ほぼ全員が協力医に変更しています。精神科など専門医は家族にお願いしていますが、難しい場合は職員が介護タクシーを使って支援しています。状態変化には口頭とメモで状況説明のうえ、排泄バイタルのチェック表を医師に見せています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師来設し利用者の状態を伝え相談をして情報を伝え支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能か、御家族から状況を聞いたり、入院先の医療機関を訪問し確認したり病院関係者と今後の受け入れの相談、確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に付いて契約時に本人・ご家族に書面にて説明している。早目に医師とご家族と職員でターミナルケアについての相談等を行っている。	契約時に書面で確認しています。自身で座ることが困難になったら家族に相談し、老人保健施設や特別養護老人ホームへの移設について検討することになっていますが、家族が「此处で」と希望した場合は出来る限りのことをする考えでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアルを目につく所に掲示し従って行動している。利用者さんの支援について常にカンファレンスの取れる体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施し、風水害の訓練も1回は、夜間設定で行っている。	夜間想定もおこない年2回の法定訓練を実施するほか、地域へは職員、利用者で出かけ、本年は2つの地区の訓練に出向いています。何かあれば隣の工場に避難できることになっていて、社員も「協力してくれる」と約束があります。	備蓄はなく近くにある法人頼みとのことです。法人が当事業所分としてどの程度、何を保有しているか、改めて精査することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 ○1人ひとりの尊重とプライバシーの確保1人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。	個人情報に関する書類は事務所の棚に施錠し保管し、掲示物の写真・生年月日・名前は、御家族の承諾を得て行っている。	個人情報1箇所集中管理とし、鍵もかけています。利用者と職員にファミリー感が滲むだけに、言葉遣いや立居振舞に親しさが増してしまわないよう管理者が留意し、また職員間でも注意しあえる関係ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来る様に手助けしたり、思い・希望を表に出せるように話に耳を傾けたりする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に合った支援をし最優先する事を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装に成る様にまた入浴後の服装もパターン化しない様に気を付けて支援している。定期的に美容師の方に来て頂いて利用者の希望のカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの出来る利用者には、食器の洗い物などをお願いしたり、年に数回嗜好調査を実施したりし好みに合った物の提供に努める。	食材は毎日レシピとともに業者から届けられ、畑で収穫した野菜も足して職員が作っています。利用者も食材や食器洗い、テーブル拭きにと進んで手伝っています。おやつもできるだけ手づくりを心掛け、最近ではおはぎやいちじく、柿をアレンジしたものを提供しています。	「外食はあまりしていないため、利用者の食べたいものを聞き取り、みんなで出かけた」とのことですので、実現を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合った軟らかさ・大きさ・量・で提供するようにし水分量と共に介護記録に記入し日々の管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に出来る人は自力で行い支援の必要の方には、職員の支援のもとに歯みがきしてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し尿意、便意の訴えがない方には時間で誘導をしたり一人の排泄状態や習慣を把握したりする様にしている。	大半がパットのみという状況にあり、見守りが主となっています。中にはオムツゼロを目指して取り組む人もいて、殆どが排泄チェック表によるパターン把握で様子観察も含み声をかけています。便秘にはマッサージや水分量増加とできるだけ投薬以外の方法をとるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・廊下を一回り・散歩と体を動かす時間を設け、水分量・食物にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。入浴の順番は入居者の身体状況に合わせて支援している。	ユニットごとに浴室のタイルの色が異なり、すべて大きいことが特徴です。冬にはファンヒーターで温め、夏はもともと風通しがよいため、少し窓を開けて換気しています。一人ずつ1日置きに足し湯ですが、湯温等好みに応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に配慮しながら支援し寝具に関しても陽に干す様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っており手渡しをし内服したのを確認している。処方箋の記録を残し一人一人の症状の変化の確認に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事やりたい事を配慮したうえで洗濯物畳み 食器拭きテーブル拭き 野菜の芽をとる、ぬりえ・カルタ・歌を唄う等楽しく出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴を楽しんだり入居者の身体状況に合わせて散歩の支援をしたりしている。本人の希望があれば買い物の支援もしている。	「ソファに座るだけで朝日は1号館、夕日は3号館でたっぷり注がれるためか、どこかに行きたい声がない」との認識で、外気浴と散歩が中心の生活を送っています。号間を自由に往来することで足腰の鍛錬は叶っており、買い物は要望に応じて職員と一緒に掛かっています。	「みんなで出かける」ことを目標に現在イベント計画中のことですので、ぜひ進捗を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金規定にて管理し買い物に行ける方には職員同行にて買い物支援に努めている。金庫は、管理者のみ開錠管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は希望に応じて利用出来るように成っている手紙も希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで天井が高く明るくゆったりとした空間が有る展示物で季節感を感じて居心地良く過ごせる様に工夫している。	天井が高く、高窓からの彩光もとれていて、温かく開放的です。また縮緬で作られた沢山の人形や御殿毬、吊るし雛、編み物のぬいぐるみやマットと、手造り品がさらに温かみを助長させていました。クリスマスが近いことを伝えるツリーやシールもみられました。	これまで季節イベントはあまりおこなわれていないとのことですので、ぜひ広いリビングが行事で賑わうことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとソファが置かれている。ホーム前の広場にはベンチを設置し入居者が一諸に集まる場と成っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用した物や馴染みの物を持って来て頂いて使用して頂いている。	モノが少なく整然として広く感じますが、ほとんどに折鶴が飾られています。僅かですがテレビや冷蔵庫が置かれた居室もあります。また植物を育てるのが好きな利用者は所有の観葉植物からプランターに株分けしていただきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし出来ない事のみを支援見守り声掛けを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600398		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム福田の家③		
所在地	磐田市東小島260番地		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福田の家は田園風景の中にポツンと建っている平屋建て建物で解放感に満ちています。周囲には実の成る木、四季を感じさせる草花が植えてあり、見る目を楽しませてくれています。天気の良い日には外気浴を楽しみりハビリ体操、歌、散歩など健康と気分転換を兼ね他の館との交流を楽しんでいます。定期的に発行している「福田の家だより」を通じて御家族や自治会の方々との交流を深めながらその人らしく安心して過ごせる家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落語、オカリナ、銭太鼓、フラダンス、法人所属のEMサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどで、困っていることを投げかけると我がことのように話し合いが進み助けられています。新管理者はなんでも言える環境をつくろうと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、「まだ十分な吸い上げはできていない」としながらも、これまでは職員負担となっていたものが軽減されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく安心して過ごせる家』という理念を挙げ実現に向けて頑張っている。	着任したばかりの管理者ですが、「不穏とみられる利用者には聴くことを優先し、状況に合わせ外の空気を吸いに出かけたりと落ち着くまで寄り添う職員の姿をよく見かける」ため、互いの信頼関係が出来ていると感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の2つの自治会さんとお付き合いさせて頂き防災訓練、豆まき、敬老会、お祭り参加させて頂き 廃品回収に協力させて頂いておる。	落語、オカリナ、カラオケ、銭太鼓、フラダンス、北浜中学の生徒による和太鼓、法人所属のエムサットとボランティアの往来が盛んです。福田の家だよりは自治会での回覧が成され、イベント情報は近隣の皆さんも楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議上認知症について説明し理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、2自治会役員さん、市、包括、家人さん地区会委員さんの協力の基2ヶ月に1回開催し施設の現状・状況報告をし皆さんから意見・要望を聞き参考にし今後のサービス向上に役立てる。	運営推進会議には2つの区の自治会代表者のほか、地域住民の積極的な協力が得られ、新任の管理者に代わって司会を引き受けてくれることもあるほどです。困っていることを投げかけると我がことのように合議が進み助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議に参加し問題等の相談をしている。	FAXで済むようなことも足繁く通い、磐田市の窓口には小さなことでも相談して顔を覚えてもらえています。最近では「所属自治会を取り違えていたと分かり、挨拶に行き今後交流を深めていくように」との指導も得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0をグループ全体で挙げている。朝9時～16時までは開錠し 利用者さんが外出希望があれば一緒に歩いて出る事をする。	すべての箇所が開放されていますが緊急外出はなく、また健康状態も大変よく、身体拘束に係るような症状もみられません。センサーがベッドの脇や入口に設置された居室ですが夜間のみ使用と限定しています。本件は毎回テーマを変え、年に1度は研修をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の指示に従っている。本部主体の研修等に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の取り組みが出来ていないので今後少しずつ取り組んで行けたらと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項説明書を渡し理解をして頂いて貰える様に説明する側も内容を熟知する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を明確にして重要事項説明書に表記・掲示している。玄関には、「ご意見箱」を設置している。月次報告書を月に1回作成し利用者	花や野菜、ボランティア情報も届けられ、また介護保険の負担増へのクレームもあったとのことから、気安い間柄にあることが覗えます。請求書にはバイトルや出来事を同封して家族には暮らしの近況を知ってもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し職員の意見・提案等情報共有化を図っている。	初管理有はなんでも話せる環境をつつと努め、また費用のかかるものは法人に稟議をあげ、フォローシップを発揮しようとしています。職員会議では議題を5つほど提示のうえ発言しやすいよう支援し、就任して2ヶ月「まだまだ」としながらも職員負担が大幅に軽減した例もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な規定改定を行い伝える事で向上心を持ち働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、規定の受講を義務化している。毎月1回勉強会を開いている。内外研修の参加を奨めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市の会議、研修に出席し情報交換を行っている。職員に関しては、グループ内の他施設へ研修に行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に直接面談し話しをし要望等をお聴きし安心して過ごせる様に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも何度かお会いし生活に対する意向要望等をお聴きしていき、入所後にも来設際には報告して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医、協力施設、ケアマネ、地域責任者にアドバイスを受けて必要な場合には、管轄の包括支援センターに依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のプライドを尊重しつつコミュニケーションを心掛けている。(性格、趣味)また 運営理念を基本に置き支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は、御家族の方々と接する事で理解して頂き、本人にとって最善の対応を模索、また実践している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと 知人 友人の方には、気軽に来設頂き 馴染みの場所には連れて行って頂いております。	家族との関係は良好で時間を潰すため、利用者は行きたい処に出かけることができます。近所に住む友人がシルバーカーを引いて遊びに来たり、昔から通う床屋へは職員が付き添うことで続けられています。珈琲やソーダを好む人、煙草を嗜む人、欲しいものは買い物外出で使っています	「外出の機会が少ないことは課題としている」とのことですので、打開策の検討を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の会話の中に職員が入って仲立ちし円滑にコミュニケーション出来る様サポートしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は無いが 要望があれば対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者とのコミュニケーションを大切にして、その中から一人ひとりの思い・希望・意向を把握して日々の生活に生かしている。	利用者との信頼関係が厚く、毎日の小さな変化にも気づくことができおり、また「その人の身になった、姿勢があります。例えば、前屈でメニューが何か知る由もなかった人には職員が大きめのクッションを置くことで「食事が美味しくなった」と喜ばれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には ご家族・ご本人に今までの生活歴・健康状態を聴き情報収集し把握に努め、入居後にはアセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行う事でこれまでの暮らしを把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを実施しモニタリングを定期的に行う事でこれまでの状態を総合的に把握するように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	統合したケアが出来る様に月初めの一週間ユニット会議を行い。モニタリングは、3ヶ月に一度行いそれらを基にして介護計画を作成している。	現状カンファレンスはなく、計画作成者が申し送りノートや排泄チェック表、介護記録、担当職員のヒアリングを参考に作成しています。これまでは職員全員での話し合いがなく、またプランの見直しも十分でなかったため今後は積極的に取組むことを決めています。	適切なプラン化の一つとして家族を交えたサービス担当者会議の開催があることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護詳細記録に日々の様子で気付いた事を記入し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や都合に応じて受診の付き添い・入院中の対応・外出支援等を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば職員と一緒に買い物に行き、自分好みに買い物が出来よう支援している。。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・歯科医とは協力医療機関契約して月々に一度受診をしている。また御家族の希望する馴染の医療機関でも受診出来る様に支援している。	選択できるようにしてはいるものの、ほぼ全員が協力医に変更しています。精神科など専門医は家族にお願いしていますが、難しい場合は職員が介護タクシーを使って支援しています。状態変化には口頭とメモで状況説明のうえ、排泄バイタルのチェック表を医師に見せています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師来設し利用者の状態を伝え相談をして情報を交わし必要時には相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が可能か状況聞いたり入院先の病院関係者と今後の受け入れについて確認、相談に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に付いて契約時に本人・ご家族に書面にて説明している。早目の医師とご家族と職員でターミナルケアについての相談等を行っている。	契約時に書面で確認しています。自身で座ることが困難になったら家族に相談し、老人保健施設や特別養護老人ホームへの移設について検討することになっていますが、家族が「此处で」と希望した場合は出来る限りのことをする考えでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策マニュアルを目につく所に掲示し従って行動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施風水害の訓練も1回は、夜間設定で行っている。	夜間想定もおこない年2回の法定訓練を実施するほか、地域へは職員、利用者で出かけ、本年は2つの地区の訓練に出向いています。何かあれば隣の工場に避難できることになっていて、社員も「協力してくれる」と約束があります。	備蓄はなく近くにある法人頼みとのことで、法人が当事業所分としてどの程度、何を保有しているか、改めて精査することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する書類は事務所の棚に施錠し保管し、掲示物の写真・生年月日・名前は、御家族の承諾を得て行っている。	個人情報情報は1箇所の集中管理とし、鍵もかけています。利用者と職員にファミリー感が滲むだけに、言葉遣いや立居振舞に親しさが増してしまわないよう管理者が留意し、また職員間でも注意しあえる関係ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来る様に手助けしたり思い・希望を表に出せるように話に耳を傾ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を最優先するように心掛け希望があれば職員同行し外の散歩をしたりし個々の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参された衣類等を季節に合わせて着用して頂き本人のプライドを傷付けない様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑で育った野菜を利用者の方と一緒に収穫し職員が調理して提供している。もやしの芽取りや食事の片付けのを一緒におこなっている。	食材は毎日レシピとともに業者から届けられ、畑で収穫した野菜も足して職員が作っています。利用者も食材や食器洗い、テーブル拭きにと進んで手伝っています。おやつもできるだけ手づくりを心掛け、最近ではおはぎやいちじく、柿をアレンジしたものを提供しています。	「外食はあまりしていないため、利用者の食べたいものを聞き取り、みんなで出かけたかと思っています」とのことですので、実現を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については細かく介護記録に記入している。個々の栄養バランスは協力医での血液検査で指導されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に出来る人は自力で行い支援の必要の方には、職員の支援の基に歯みがきをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し尿意、便意の訴えがない方には時間で誘導をしたり一人の排泄状態や習慣を把握する様にしている。	大半がパットのみという状況にあり、見守りが主となっています。中にはオムツゼロを目指して取り組む人もいて、殆どが排泄チェック表によるパターン把握で様子観察も含み声をかけています。便秘にはマッサージや水分量増加とできるだけ投薬以外の方法をとるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操、ホール回り、散歩と身体を動かす時間を設けている。水分量が少ない方には声掛けしたりし、さつま芋や柿をおやつに提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。順番や時間は、その日の体調に合わせて行う様にしている。	ユニットごとに浴室のタイルの色が異なり、すべて大きいことが特徴です。冬にはファンヒーターで温め、夏はもともと風通しがよいため、少し窓を開けて換気しています。一人ずつ1日置きに足し湯ですが、湯温等好みに応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に配慮しながら支援し寝具に関しても陽に干したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は職員が行って手の平に渡したり口の中に入れ内服したのを確認している。処方箋の記録を残し一人ひとりの症状の変化の確認に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事ややりたい事を配慮したうえで洗濯置き 食器拭きテーブル拭き 野菜の芽をとる、ぬりえ・カルタ・歌を唄う等楽しく出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴を楽しんだり体操したり 入居者の身体状況に合わせて散歩の支援をしている。本人の希望があれば買い物も支援している。	「ソファに座るだけで朝日は1号館、夕日は3号館でたっぷり注がれるためか、どこかに行きたい声がない」との認識で、外気浴と散歩が中心の生活を送っています。号間を自由に往来することで足腰の鍛錬は叶っており、買い物は要望に応じて職員と一緒に掛かっています。	「みんなで出かける」ことを目標に現在イベント計画中のことですので、ぜひ進捗を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金規定にて管理し買い物に行ける方には職員同行にて買い物支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話 希望に応じて利用出来る様に成っている。手紙も希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てで天井が高く明るくゆったりとした空間が有る展示物で季節感を感じて居心地良く過ごせる様に工夫している。	天井が高く、高窓からの彩光もとれていて、温かく開放的です。また縮緬で作られた沢山の人形や御殿毬、吊るし雛、編み物のぬいぐるみやマットと、手造り品がさらに温かみを助長させていました。クリスマスが近いことを伝えるツリーやシールもみられました。	これまで季節イベントはあまりおこなわれていないとのことですので、ぜひ広いリビングが行事で賑わうことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとソファが置かれている。ホーム前の広場にわベンチを設置し入居者が一諸に集まる場と成っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用した物や馴染みの物を持って来て頂いて使用して頂いている。	モノが少なく整然として広く感じますが、ほとんどに折鶴が飾られています。僅かですがテレビや冷蔵庫が置かれた居室もあります。また植物を育てるのが好きな利用者は所有の観葉植物からプランターに株分けしていただきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし出来ない事のみを支援見守り声掛けを行っている。		